

# TAC魚種拡大の進捗状況 について

水産庁

# 新たな資源管理の全体像

## 【 資源調査 】

(行政機関／研究機関／漁業者)

### ○漁獲・水揚げ情報の収集

- ・ 漁獲情報 (漁獲量、努力量等)
- ・ 漁獲物の測定 (体長・体重組成等)

### ○調査船による調査

- ・ 海洋観測 (水温・塩分・海流等)
- ・ 仔稚魚調査 (資源の発生状況等) 等

### ○海洋環境と資源変動の関係解明

- ・ 最新の技術を活用した、生産力の基礎となるプランクトンの発生状況把握
- ・ 海洋環境と資源変動の因果関係解明に向けた解析

### ○操業・漁場環境情報の収集強化

- ・ 操業場所・時期
- ・ 魚群反応、水温、塩分等

## 【 資源評価 】

(研究機関)

行政機関から独立して実施

### ○資源評価結果 (毎年)

- ・ 資源量
- ・ 漁獲の強さ
- ・ 神戸チャート (※) など

※ 資源水準と漁獲圧力について、最大持続生産量を達成する水準と比較した形で過去から現在までの推移を表示したもの

### ○資源管理目標等の検討材料 (設定・更新時)

1. 資源管理目標の案
2. 目標とする資源水準までの達成期間、毎年の資源量や漁獲量等の推移 (複数の漁獲シナリオ案を提示)

## 【 資源管理目標 】

(行政機関)

関係者に説明

1. ①最大持続生産量を達成する資源水準の値 (目標管理基準値)  
②乱かくを未然に防止するための値 (限界管理基準値)
2. その他の目標となる値 (1. を定めることができないとき)

## 【 漁獲管理規則 (漁獲シナリオ) 】

(行政機関)

関係者の意見を聴く

## 【 操業 (データ収集) 】

(漁業者)

### ○漁獲・水揚げ情報の収集

- ・ ICTを活用した情報収集



## 【 管理措置 】

関係者の意見を聴く

### TAC・IQ

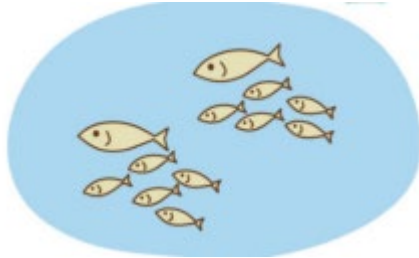
- ・ TACは資源量と漁獲シナリオから研究機関が算定したABCの範囲内で設定
- ・ 漁獲の実態を踏まえ、実行上の柔軟性を確保
- ・ 準備が整った区分からIQを実施

### 資源管理協定

- ・ 自主的管理の内容は、資源管理協定として、都道府県知事の認定を受ける。
- ・ 資源評価の結果と取組内容の公表を通じ管理目標の達成を目指す。

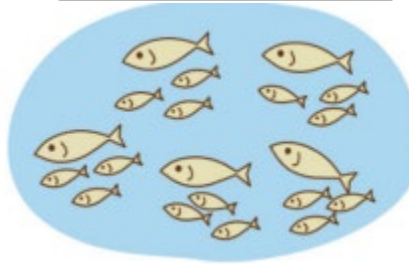
# 資源管理の目標～どう魚を獲っていくべきか～

魚が少ない



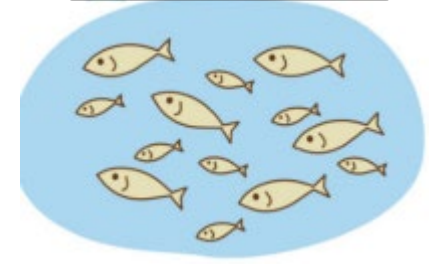
子どもは生き残るが、  
親が少ないので  
効率が悪い

中間的な量だと



生き残って獲れる魚が  
一番多い

魚が多すぎると



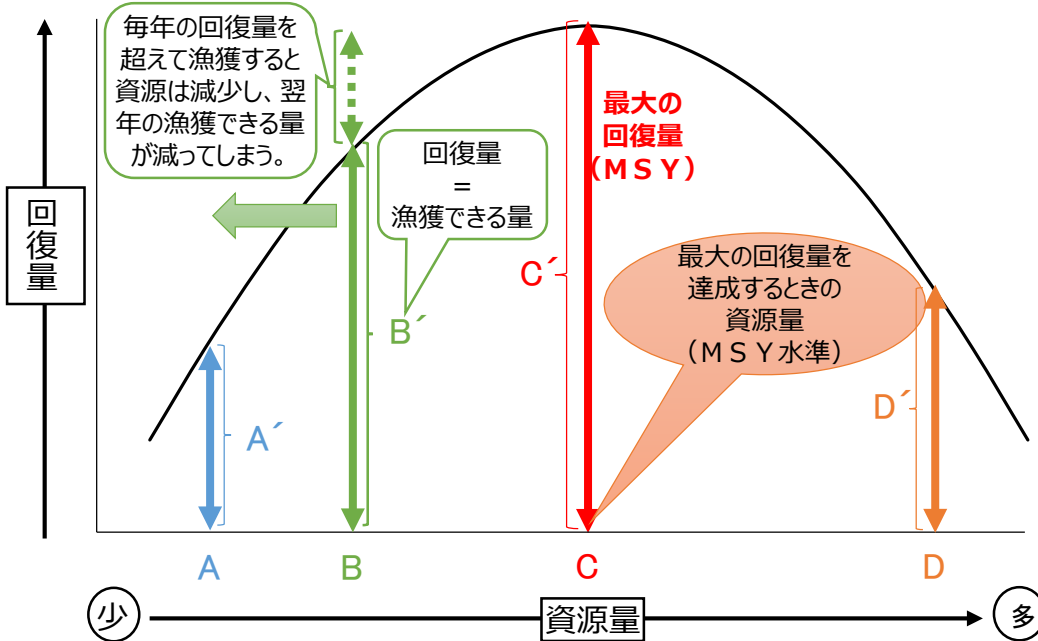
混みあいすぎてエサや  
スペースが足りない

漁獲によって魚を「適度に」間引いた場合、  
中間的な量のところで最大の漁獲量が得られる水準  
(MSY水準) になると考えられる

# 最大持続生産量 (MSY: Maximum Sustainable Yield)

- 水産資源は、漁獲により資源が減少しても自然の回復力が働いて増加する。その増加量（回復量）と同じ量だけ漁獲すれば、資源量は増えもせず減りもせず、その水準で維持される。
- 回復量は資源量の増大に伴い増えるが、資源量がある程度以上になると逆に減る（餌の競合等により成長や生存率が低下するため）。
- 回復量が最大になる資源量で、その回復量分を漁獲すれば、「最大の漁獲」が続けられる、というのがMSY理論。
- 現実には、仔稚魚の生存率や成長速度は海洋環境の変化に大きく影響を受けるため、MSYの正確な推定は困難であった。近年、新たな統計手法やコンピュータ技術の発展により、様々な影響を考慮した推定ができるようになり、欧米では実際の管理に適用し、大きな効果を発揮。

【資源量と回復量の関係】

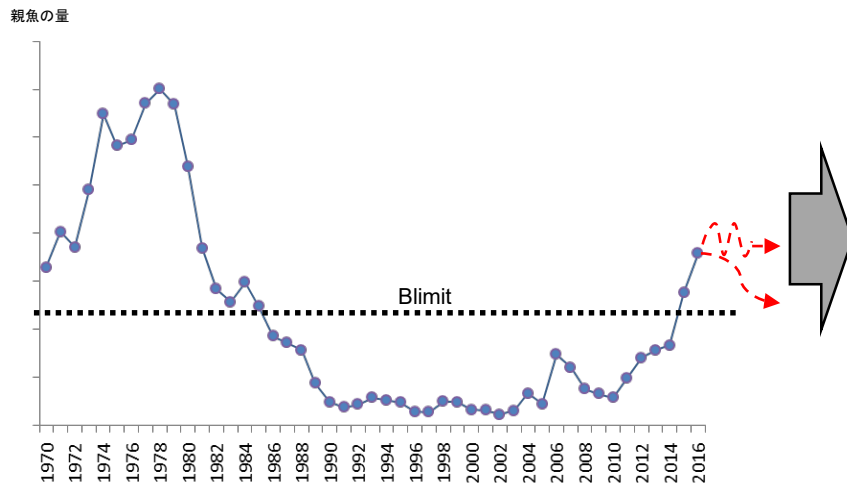


- 資源量がBのときの回復量はB'。B'で漁獲を続ければ資源量はBで維持される。B'以上に漁獲すると資源量は減少し、例えばAまで減少すれば回復力はA'に。逆に資源量がある程度以上多くても回復量は少ない。(DとD')
- 資源量がCのとき、最も回復量が大きくなり、この量 (C') をMSYという。

# 資源管理の目標

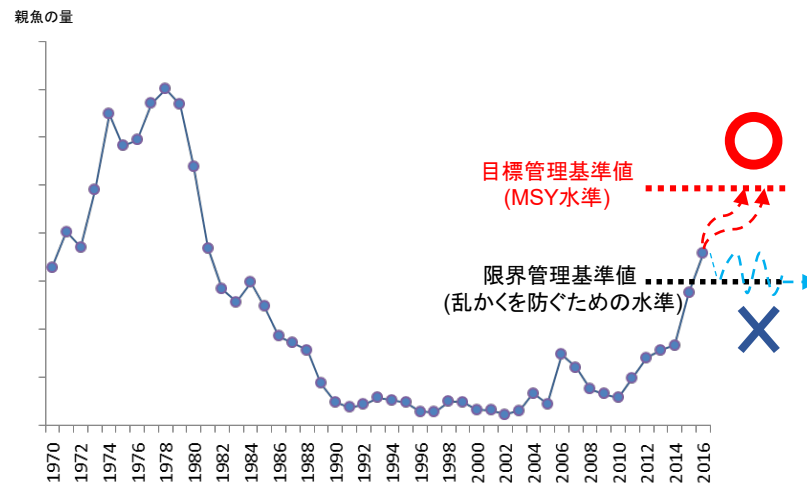
- 以前は、安定した加入が見込める最低限の親魚資源量（Blimit）への維持・回復を目指した管理を実施。
- 現在は、持続的な水産資源の利用を確保していくため、大臣の定める資源管理基本方針において、
  - ① 目標管理基準値：最大持続生産量を達成する資源水準の値
  - ② 限界管理基準値：乱かくを未然に防止するための資源水準の値（これを下回った場合には目標管理基準値まで回復させるための計画を定めることとする）
 を設定し、これらを基に管理を実施。
- 目標管理基準値と限界管理基準値を定めることができないときは、資源水準を推定した上で、維持・回復させるべき目標となる資源水準の値を設定。

<以前>



- 基準値を上回った場合に目指す資源水準がない。
- 一時的な水温上昇等の環境要因等により資源量が危険水準まで低下するといった脆弱性を有していた。

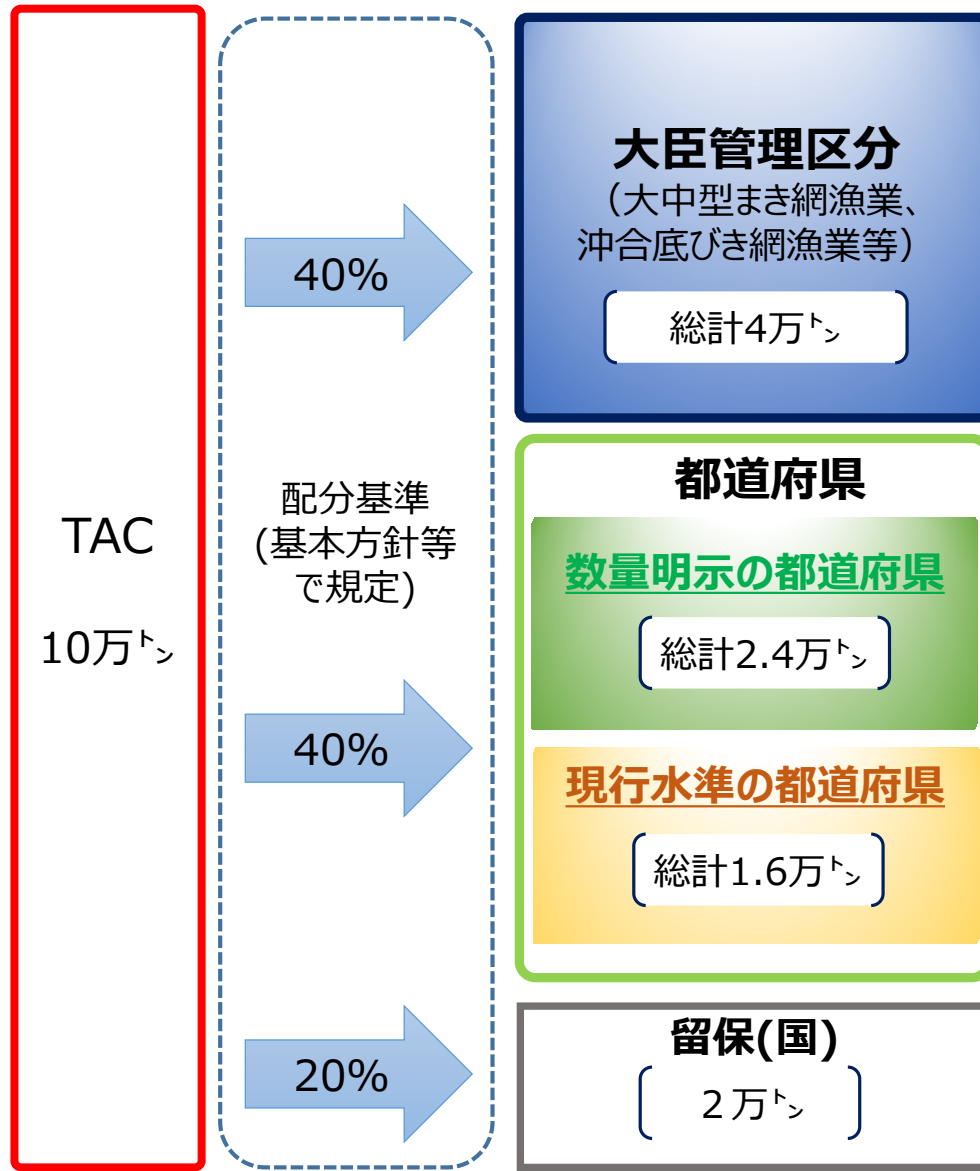
<現在>



- 資源水準をMSYを実現する水準に回復・維持させる目標を設定。
- これにより、資源の状況によっては、短期的に漁獲抑制が必要となる場合もあるが、長期的には資源量の増加、安定した採捕による資源の最大限の有効活用が促進。
- 長期的な漁獲量の予見可能性が高まり、漁業者の長期的経営計画の策定が可能となる。

# TACの配分・管理

- 設定されたTACは、大臣管理区分と都道府県へ配分する。
  - ◎ 配分の基準は、漁獲実績を基礎とし、漁業の実態その他の事情を勘案して、TAC魚種ごとに資源管理基本方針に定める。
  - ◎ 漁獲量の比較的多い都道府県には数量を明示して配分する（「数量明示」）。漁獲量の比較的小さい都道府県には、配分数量を明示せず、「現行水準」とする（目安とする数量は示す）。
- TAC超過防止のためのセーフティーネット又は想定外の大量の来遊等に対する数量超過のリスク低減措置として、必要に応じ「留保枠」を設定し、国で管理する。
  - ◎ 留保枠からの配分の条件はTAC魚種ごとに決定する。
  - ◎ 二国間入漁協定により、外国漁船に割り当てる数量も留保枠に含める。



# T A C魚種拡大に向けた検討プロセス

● 検討のプロセスは、「公表」⇒「検討部会」⇒「SH会合」⇒管理の実施という流れが基本。

- ① 「**公表**」…資源評価結果が公表されるタイミングを示す。
- ② 「**検討部会**」…資源管理手法検討部会の開催のタイミングを示し、ここでは論点や意見の整理を実施。
- ③ 「**SH会合**」…資源管理方針に関する検討会（ステークホルダー会合）の開催のタイミングを示し、ここでは従来のT A C魚種と同様に、M S Yベースの資源管理目標やそれを達成するための漁獲シナリオの議論を行うとともに、新たにT A C管理を行うにあたっての課題解決について議論。
- ④ 「**水政審**」…水産政策審議会資源管理分科会の開催のタイミングを示し、ここでは新規T A C魚種を追記した資源管理基本方針案を諮問・答申。

## ◎ 「T A C魚種拡大に向けたスケジュール」の例



# T A C 魚種拡大に係る検討進捗状況

水産資源	資源評価結果の公表	資源評価結果説明会	資源管理手法検討部会	ステークホルダー一会	
カタクチイワシ対馬暖流系群 ウルメイワシ対馬暖流系群	令和3年9月30日	—	令和3年12月14日	第1回：令和4年3月3日 第2回：令和5年2月15,16日	
カタクチイワシ太平洋系群 ウルメイワシ太平洋系群			令和3年11月29日	第1回：令和4年3月28日 第2回：令和5年3月7日（カタクチイワシ）	
ヒラメ瀬戸内海系群	令和3年12月24日	—	令和4年2月8日	今後開催	
マダラ本州日本海系群 ソウハチ日本海南西部系群 ムシガレイ日本海南西部系群 ニギス日本海系群			令和4年2月25日	マダラ本州日本海系群第1回：令和5年3月9日 それ以外：今後開催	
マダラ本州太平洋系群 ヤナギムシガレイ太平洋北部系群 サメガレイ太平洋北部系群			令和4年3月17日	マダラ本州太平洋系群第1回：令和5年3月23日 それ以外：今後開催	
マダイ瀬戸内海中・西部系群 マダイ日本海西部・東シナ海系群			令和4年4月21日	マダイ日本海西部・東シナ海第1回： 令和5年5月16日 それ以外：今後開催	
ブリ			令和4年1月28日	—	今後開催（令和5年度第2四半期）
カタクチイワシ瀬戸内海系群	令和4年9月30日	令和4年10月21日	令和4年11月21日	令和5年5月30日	
ムロアジ類東シナ海系群 キンメダイ太平洋系群			令和4年12月20日	今後開催	
マダラ北海道太平洋、北海道日本海	令和4年12月23日	令和5年1月11日	令和5年3月3日	今後開催	
ヒラメ日本海北部系群 アカガレイ日本海系群 ベニズワイガニ日本海系群		令和5年1月18日	ヒラメ日本海北部 ：令和5年3月17日 それ以外：令和5年5月22日	今後開催	
マダイ瀬戸内海東部系群 イカナゴ瀬戸内海東部		令和5年1月20日	イカナゴ：令和5年5月22日 それ以外：令和5年6～8月順次	今後開催	
トラフグ日本海・東シナ海・瀬戸内海系群 ヒラメ日本海中西部・東シナ海系群 サワラ日本海・東シナ海系群		令和5年1月25日	ヒラメ日本海中西部・東シナ海系群 ：令和5年3月17日 それ以外：令和5年6～8月順次	今後開催	
ヒラメ太平洋北部系群 トラフグ伊勢・三河湾系群		令和5年1月27日	ヒラメ太平洋北部：令和5年4月24日 それ以外：令和5年6～8月順次	今後開催	
サワラ瀬戸内海系群		令和5年1月31日	令和5年6～8月順次	今後開催	
ソウハチ北海道北部系群 マガレイ北海道北部系群		令和4年12月23日 （一部公表）	令和5年5月以降	令和5年6～8月順次	今後開催